

# わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？  
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。

## 長久手湿地保全の会

水岡恵子さん(写真左)  
高村光一さん(写真右)

今回は、主に市内東部にある湿地の整備活動などに取り組む、長久手湿地保全の会の水岡恵子さんと、高村光一さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：本日は鯉ヶ廻間湿地の保全活動を見学させていただきました。ありがとうございます。

水岡恵子さん(以下「水」)：私たちは市内3か所(二ノ池湿地群、東山の谷津田、本日の活動場所である鯉ヶ廻間上池・下池)に分布する、11の湿地の整備をしています。毎週火曜日に各エリアへ回らず、草刈りや伐採、進入路の開拓などを行っており、雨天の予備日などを含めて、月に3〜4回活動しています。ほかにも、昨年長久手で開催された湿地サミットなど、環境に関するイベントの際に活動報告をしたり、商業施設でパネル展を行ったり、湿地とその保全活動の重要性について啓発しています。

情：お二人が環境保全の取り組みを始めたきっかけは何ですか。

水：かつて香流川のごみ拾い活動をしていた際に、先輩から川沿いの植物について色々教えてもらったことがきっかけで自然環境に関心を持ちました。自然や植物のことは知れば知るほど興味深く、長久手の「くて」が「漱」と書いて湿地を意味することを知り、自分たちで長久手の自然を守っていかなければと考えるようになりました。

高村光一さん(以下「高」)：私はもともと自然が好きで、定年後に市内でできる環境活動を探していました。何かから始めれば良いかわからず二の足を踏んでいました。

情：本日活动に参加してみても、すべて手作業にもかかわらず、数時間で景色が開けていく様子には驚きました。また会の皆さんが得意分野を生かし、いきいきと活動されている姿も印象的でした。

高：会員は17人いますが、黙々と草を刈る人や、大きな木を切る人、植物が大好きで写真撮る人など、各々が楽しみを持って取り組んでいます。体力的に大変そうだという理由でなかなか参加に踏み出せない人も多いかもしれませんが、活動時間



▲湿地の整備活動の様子

情：それでは、市民のみなさんへメッセージをお願いします。

高：まずは湿地の観察会などのイベントに参加してみると、珍しい生き物に出会えるかもしれません。私のおすすめは、秋に咲くシラタマホシクサです。



▲シラタマホシクサ

これは東海地方特有の絶滅危惧種で、湿地にしか咲かない植物です。花の大きさは1センチもないほど小さいですが、一面に咲く様子は、まるで地面に星空が広がったようにきれいなので、ぜひ一度見ていただきたいです。

水：保全の会は2014年に設立し、来年で10周年を迎えます。今後も長久手の名前の由来である湿地を未来の世代に繋いでいくため、活動を続けていきます。自然豊

かな長久手が好きな人は、私たちの活動に参加してみませんか。



▲湿地の整備活動の様子

### 湿地保全活動

- 問 環境課 ☎56-0612  
ボランティアセンター ☎61-3434
- 時 原則毎週火曜 10:00~正午
- 場 市内にある湿地群(長久手温泉ござらっせ集合)
- 持 軍手、長靴、水分
- 申 環境課またはボランティアセンターへ電話で申込。

「Weeklyながくて」でも長久手湿地保全の会の活動の様子を取材しています。▶

